

## 私のすすめるこの1冊

饗場 知昭 (音楽科 教授)

### 『すべては宇宙の采配』 木村秋則 著

最近本をゆっくり読む時間をなかなかとることができない。まあこれは少し言い訳で、そういう時間を作ろうとしていないというのが正しい言い方かもしれない。この原稿依頼を受けたおかげで、私はまた一冊の本とであう事ができた。

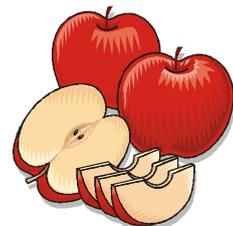
実は、私はスピリチュアルな内容のものが好きなタイプである。「不思議な体験」は自らも数々経験済みであるので、非常に興味がある。以前読んだ本は『神との対話』全3巻、これは筆者が一何故人生は思うようにならないのか一神様にあてて愚痴をペンで書いていた所、あるとき筆者の手に神が降りて、そのペンを使って彼の問いに答えるというユニークな展開であった。が内容は大変哲学的で、私の人生の支えになる本となった。

さて、今回私がお薦めする本は『すべては宇宙の采配』一奇跡のりんご一つまり無農薬のりんご栽培を成功させた木村秋則さんの著書である。彼は数々のおおよそ信じられないような体験を通してこのように述べている。「この世界で人間が理解できること、理解していることなんてほんのわずかに過ぎない」と。

彼は自身に起こった奇跡的な不思議体験を紛れもない真実と真正面に受け止めて語っている。不思議な体験をした人間

を合理主義の人はなかなか受け入れようとしないのが現実であるが、その体験が正しいかどうかではなく、その人にとってその体験にどれだけの真実があるかということが重要なのである。

彼はりんご農家の婿養子に入り、農薬アレルギーに苦しむ妻を目の当たりにして一念発起し、無農薬でりんごを作ることを決意する。そして実に11年という歳月を掛けて無農薬りんご栽培に成功する。その間の周囲からのバッシングは凄まじく、家族は貧乏のどん底に追いやられ、ついに死の決意までせざるを得なかった筆者の苦悩は想像を絶するものである。しかし彼の冷静な観察力や未来に向けての洞察力は不思議な力に支えられ、彼は自らのヴィジョンを信じて成功への道を切り開いていくのである。「食べ物は、人間の身体だけではなく、心も作っているのです。今、日本はとても殺伐とされています。いつからか、「有難う」「すみません」が自然にいけない社会になってしまいました。たとえ言っても上辺ばかりで、薄ら寒い世の中です。」筆者の思いが伝わってくる重い言葉である。



「すべては宇宙の采配」 著者:木村秋則

発行者東邦出版株式会社発行年2009. 8 購入手続き中



## 第14回 「うた」と「おはなし」の会 (2010.5.9)

第14回となった今回はすがすがしい春の陽気の中、87名の親子が集まって楽しいひと時を過ごした。

まず、大型紙芝居「おおきく おおきく おおきく なあれ」は、画面上の小さなぶたに、「おおきくおおきくおおきくなあれ」と呪文を唱えると、大きなぶたに変身するという単純な内容であるが、子どもたちはすっかりこの面白さに夢中になり、「おおきくおおきく…」の大合唱が会場中に響いた。そして最後にケーキが登場すると、2歳の女の子が思わず紙芝居に歩み寄り小さな手でぱくっと口に入れる真似をするなど、微笑ましい姿も見られた。続いて人形劇「3びきのこぶた」では、おおかみが子どもたちの目の前に登場し、「うまそうなこぶたはどこだ？」などと話しかけると、「こわい～」と母親にしがみつく1～2歳児や「あっち、あっち…」と必死な顔で答える3～4歳児など、演じ手と子どもたちが一体となって劇が進行していく様子が見られた。そして、最後に子ぶたたちがおおかみをやっつけると子どもたちからも「やったあ」という歓声があがり、満足そうな表情が見られた。

続いて5月の誕生日をテーマにした大型絵本「ウララちゃんのたんじょうび」を楽しんだ後、今回初めての試みである「影絵」が登場した。プロジェクターの青い光の中に、動物のシルエットが投影されると「あっ、わかった!」と嬉しそうに答えたり、次に出てくる動物を親子で相談しながら楽しみに見入る様子も見られ、しばしの間幻想的な世界を味わった。そして、恒例である楽器あそびコーナーでは、学生が扮するおもちゃの兵隊がサクソフォンとシロフォンで「おもちゃのチャチャチャ」を演奏すると、子どもたちも

それに打楽器と歌で加わって会場は大いに盛り上がった。続くパネルシアター「だれのせんたくもの」は、ブラウスやエプロン、ズボンや腹まきなどを誰の洗濯物か歌に合わせてあてていくもので、最後におかあさんが宇宙服を着て、ロケットに乗り込み宇宙へと旅立つシーンでは、つい先日日本中で話題になった山崎直子さんのニュースが記憶に新しいこともあり、会場からは大きな拍手が上がった。

エンディングは幼児教育科1回生16名が、「NHK おかあさんといっしょ」で人気の「ありがとうの花」を合唱し、和やかな雰囲気のもとで閉会した。帰りには、学生手作りの「3びきのこぶた」の家をお土産にもらって子どもたちは大喜びの様子だった。

終了後のアンケートでは、「こんなに充実した会は初めてで、本当に楽しかったです」「まだ2歳ですが、子ぶたの人形劇がよほど面白かったのか最後まで集中して見ていました」「よく、“最近の学生は…”などと言われますが、教育大の学生さんを見ていて将来の日本が楽しみになってきます!」など、好意的な感想が数多く寄せられた。これらの貴重な意見を反映させ、子どもたちは勿論、保護者の心にも響くような会になるよう学生とともに努力していきたいと考えている。

(文 幼児教育科 平井准教授)

学生と一緒に手遊びをする子どもたち →



# 図書館からのお知らせ

## 論文検索収集法講座を開催します！

レポート・論文の資料集めをもっと効率的にしませんか？

雑誌論文の検索データベース「CiNii(サイニー)」を使って、論文の探し方や入手の仕方を教える講座を開催します。パソコンを使った実習付きで、希望者には、論文資料を実際に手に取るまでを体験する「探索実習」オプションも追加できます。これからレポートや論文を書こうという方、ぜひご参加ください！

集合場所：附属図書館カウンター

所要時間：約 30 分（探索実習オプションは +30 分）

※パソコン台数の都合上、先着 4 名までといたします。図書館カウンターかメールにてお申し込みください。

ただし、人数に余裕があれば当日参加も大歓迎です！



開催日	曜日	開始時間
6月7日	月	15:00~
6月9日	水	15:00~
6月16日	水	11:30~
6月18日	金	15:00~
6月24日	木	11:30~

問い合わせ先: library@kyokyo-u.ac.jp 情報サービス担当: 角野

### 図書館員の イチオシ!!

論文を書かなきゃ！ …でもどうやって書いていけばいいの…？  
そんな方にイチオシ！

## DVD 『情報の達人』シリーズ

ポルケ 製作、日本図書館協会 総合監修 2007 年

- 第 1 巻 『図書館へ行こう! : インターネット時代の情報活用入門』 請求記号 : D-0 || P 83 || 1  
 第 2 巻 『ゼミ発表をしよう! : テーマ選びからプレゼンテーションまで』 請求記号 : D-0 || P 83 || 2  
 第 3 巻 『レポート・論文を書こう! : 誰にでも書ける 10 のステップ』 請求記号 : D-0 || P 83 || 3

情報の集め方や発表の仕方、論文の組立方などをわかりやすく解説しています。入門編としてぜひご利用下さい  
 「北館 2 階 AV 資料 DVD コーナー」にあります。1 週間の貸出が可能です

## ～ 図書館開館スケジュール ～

2010年 6月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
		休	●	●	●	▲
6	7	8	9	10	11	12
休	●	●	●	●	●	▲
13	14	15	16	17	18	19
休	●	●	●	●	●	▲
20	21	22	23	24	25	26
休	●	●	●	●	●	▲
27	28	29	30			
休	●	●	●			

2010年 7月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
				●	●	▲
4	5	6	7	8	9	10
休	●	●	休	●	●	▲
11	12	13	14	15	16	17
休	●	●	●	●	●	▲
18	19	20	21	22	23	24
休	休	●	●	●	●	▲
25	26	27	28	29	30	31
休	●	●	●	●	●	▲

### <カレンダーの見方>

日付	9:00~21:00
●	
日付	9:00~17:00
▲	
日付	休館日
休	

6月1日は創立記念日のため休館  
 7月7日は館内整理日のため休館

“日本占領期のビルマにおける米不足再考 —戦争末期のシャン連合州を中心に—”

武島 良成 (社会科学科 准教授) 京都教育大学紀要 No.116 p.9-22 2010年3月

ゲゲゲの鬼太郎の作者である水木しげるさんの言葉に、「戦争はいかんです、腹が減るだけです」というものがあります。前線で戦争を体験した人ならではの、リアルなメッセージですね。では、みなさんは、より具体的に、いつ、どこで、誰がどれぐらいお腹をすかせていたのか説明できますか？

統計の数字を見る限りでは、1944年までは、日本国内の食料事情は、それ程に致命的なものにはなっていなかったようです。同じことは、ドイツにも言えるようです。「え？そうだったの、なーんだ」とは言わないでください。配給の滞りなど、数字に現れないような問題もあったのですから。また、藤原彰氏が『餓死した英霊たち』であらためて総括したように、日本兵の最大の死因は、栄養失調に起因する餓死・病死でした。北ベトナムで飢餓があったことなども、農村調査によって裏づけられています。このように、人によって、地域によって、どのような状況の下でどれぐらい腹が減ったのかは、かなり多様なものだったようです。

今回の論文は、私が学生時代から継続的に調べてきた、日本占領期のビルマにおける米不足の話です。ビルマでも、米が足りなくなっただろうか、時期と地域によって差異があったようです。そのことを、以前に発表した論文をベースに、ほんの少し緻密化させてみました。解明しきれないままの部分も多々ありますが、史料不足のために半ば究明を諦めていた話だったので、なんとか発表できてほっとしています。

全文は京都教育大学紀要 116 号に掲載されています。

後日、京都教育大学リポジトリ「クエリ(KUERe)の森」<http://ir.kyokyo-u.ac.jp/dspace/> に掲載予定です。

注意!

最近、図書館のグループ学習室で、USB メモリの忘れ物が増えています!

パソコンを終了する前に、USB メモリを抜いたかどうか、必ず確認しましょう。

注意!

- 京都教育大学附属図書館ホームページはこちらから <http://lib1.kyokyo-u.ac.jp/>
  - 携帯版図書館ホームページはこちらから <http://lib1.kyokyo-u.ac.jp/m/mhome.htm>
- 下記の QR コードからもアクセスできます



京教図書館 News No.116 (2010年6月号)  
発行日:平成22年6月2日  
編集発行:京都教育大学附属図書館  
内容に関するお問い合わせ先: [library@kyokyo-u.ac.jp](mailto:library@kyokyo-u.ac.jp)



京都教育大学